

公表

事業所における自己評価結果

公表日 R7 年 11月 1日

事業所名					
		公表日 R7 年 11月 1日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		3部屋分かれており、活動や児童の様子に応じて活用している。また、部屋が分かれていることで死角がある為職員が目が行き届くように配慮を行っている。	
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6		一日の利用児童数に対して適切な職員の配置を行っている。	
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	4	2	室内の段差がないようにしたり、危険な箇所を保護している。部屋の使い分けや過ごし方など子どもたちに伝え、必要があれば視覚化できるようにしている。	スロープは、常設してはいない。必要があれば簡易的なスロープは用意している。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5	1	清掃は毎日行い、遊具等は決まった場所に配置しておくようにしている。	製作途中のもので置き場所を考えて整理整頓が継続的に出来るようにする。西日がまぶしく感じる時がある為、過ごしやすいよう配慮していく。
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		その日の児童の様子に合わせて、活動内容に合わせて児童と相談しながら使用できるようにしている。また、各部屋に職員が配置可能な場合に使用する部屋数の調整をしている。	
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6		職員全員が児童の日々の様子の変化の共有やモニタリングに参加する場を持ち、支援に反映できるようにしている。	
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		年に一度保護者様に評価を記載していただき、内容を受け止めている。	意向や相談があった場合には、その都度迅速に対応できるようにしていく。
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		朝礼時や支援前、支援後等に確認をし、意見の共有をしながら必要な改善内容があれば対応している。	
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	2	第三者評価者の配置は行っている。	現在、第三者による外部評価を行っていないが、必要な場合はすぐに対応できるようにしている。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		法人内で年間計画した支援に関する研修を行い、参加した職員は事業所でフィードバックして全職員で周知・把握できるようにしている。	外部講習など参加できる際は、積極的に参加できるとよいと感じている。
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		法人内で支援プログラムを作成し、ホームページで公開して誰でも見れるようにしている。	
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6		契約時にアセスメントを行ったり、職員間でモニタリングを行ったり、担当者会議に参画し、保護者様にニーズや課題に沿った内容を計画書に反映するようにしている。	
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		全職員で日々児童の様子を共通把握し、支援内容や課題の見直しを行い、サービス計画を作成している。	日々の様子を情報共有し、統一した支援が行えるよう定期的にモニタリングを行って支援の見直しを行っていく。
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		サービス計画書を作成し、保護者様に確認していただき了承を得た後に全職員で共有し、内容に沿い統一した支援ができるよう努めている。	
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		契約時などに、法人で用いられている様式でアセスメントを行い、その情報をもとに児童の行動の確認をし、対応などを行っている。	
	16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		本人支援を主に行っており、ガイドラインに沿って支援設定を行いながら、5領域に合わせた支援を行うよう心がけている。	
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		その日の活動は、職員間で持ち回りして立案し、朝礼の際に職員全員で内容の確認をして職員配置や活動に対しての意見交換を行っている。	
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		毎日の活動が、マンネリ化しないよう色々な活動を組み合わせて内容に変化を持たせている。	

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6		集団生活の中で個別活動・集団活動どちらにも参加して過ごす事に慣れ、楽しんで過ごせるよう支援を行っている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		その日の担当職員が中心となり、活動内容や役割分担・配置などの確認を行い、意見交換をし連携を取りながら支援に入っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	3	3	その日の中で、児童の様子について気になることがあった際には情報共有し、次の日に再度全職員間で確認し合っている。	少しでも気になった事があった場合に共有するようになる。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		毎日行動記録をとり、振り返りの際に読み返ししながら現状の確認、改善を行うようにしている。	日々の記録と共に支援恵佳うの内容に沿った記録も誰が見返してもわかるように残していくようにする。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切に見直しを行っているか。	6		3ヶ月に一度のモニタリングを行い、現状の把握をしたうえで内容の変更が必要であるかを検討している。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	6		可能な限り、基本的活動に沿って組み合わせながら行っている。	地域との交流する機会は少ない為、機会があれば参加していきたい。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6		選択肢を用意して自分で選べるようにしたり、自分で取り組めるように子に合わせて対応するようにしている。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		管理者兼児発官が、担当者会議や子ども部会などに参画している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6		相談員を通して各関係機関と連携させていただき対応をしている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6		学校から毎月下校時刻表をいただいたり、引き渡し、児童の様子等必要な際には、連絡をとるようにして対応を行っている。町内の子ども部会でも学校との連携を図っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6		相談員を通して情報を得たり、町内の子ども部会の時などに特性や情報交換などを行っている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供しているか。	6		相談員を通して情報共有を行い、移行支援会議に参画する場合にはその場で情報を提供している。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	6		必要の場合は、相談員などを通して連携をとり、助言をいただくようにしている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	5	1	外出先の公園や児童館に出かけた際に交流を持つ機会がある。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	6		町内の子ども部会に管理者兼児発官が参加している。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	6		引き渡しや送迎の際に、当日の様子や変化をお伝えしている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	1	5	ご相談があった場合に、お話を伺い事業所での対応などをお伝えしたりしている。	研修や講習などの情報があった場合には、必要としているご家庭にご案内したり、ご相談にのれることができるようにしていく。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		見学時や契約時に説明を行っている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の視点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		担当者会議の際に日々の様子を伝えながら、意向や課題、目標などの確認をした上で、計画書を作成している。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6		作成した計画書に目を通していただきながら、支援内容等の説明を行い、内容に納得していただけたら同意署名を得ている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		ご相談があった場合は、職員間で話し合いの場を持ち、支援に反映できるようにしたり、支援の方向性など保護者様にお伝えした上で支援を行うようにしている。	大きい内容であれば、各機関と連携をとり、ケース会議などに参加して情報共有・支援への取り入れなどを行うようにしていく。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機軸を設ける等の支援をしているか。		6	現在、保護者会やきょうだい児に対する交流会などの機軸は設けていない。お迎え時にきょうだいがいる際には、コミュニケーションや室内にも自然と入ってこれる環境になっている。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		ご意見やお話が合った場合には、真摯に受け止め、職員間でも周知した上で、改善に努めていくようにしている。	確認が必要な事項に対しては、お時間をいただく場合がありますが、適切に対応できるよう努めていく。

守	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	4	2	行事予定や長期休み内でのレクのご案内は、事前に利用予定表に記載させていただいたり、ご案内のお便りを出させていただいている。不定期でホームページに活動の様子を掲載している。	定期的なお便りや通信の作成ができていない現状の為、今後保護者様に事業所で児童の過ごしている様子がわかるように発信できるように検討していく。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		事業所内で徹底して行っている。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		連絡ノートや日誌で情報共有をしたり、送迎や引き渡しの際に日々の様子をお話している。また、必要があればお電話などでお話させていただいている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	4	事業所周辺の方へ行った際には、ご挨拶させていただいているが、行事などに招待の案内はしていない。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6		各マニュアルを策定し、法人内で定期的に研修などを行い、事業所内でも周知するようにしている。各対応後は、その都度家庭に伝えるようにしている。	保護者には、口頭でのお伝えが主の為マニュアル自体の内容の周知まで至っていない。保護者への周知の仕方を考える。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		業務継続計画や災害時計画などを策定し、災害グッズの確認や定期的に避難活動などを行うようにしている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	6		契約時やアセスメント時に持病や服薬、てんかんなどを持っているか等の確認を行っている。	てんかん発作など、急な児童の変化に対応できるように定期的に対応の確認をし、児童の安全につなげていく。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6		食物アレルギーがある児童に対しては、食事時に口にしないよう徹底し、服薬などの確認も行っている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6		避難や非常事態を想定しながら、支援にあたっている。	
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6		定期的に避難先の確認や各保護者様の緊急連絡先の確認を行っている。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		法人内で集計した内容や事業所内のヒヤリハットの内容を情報共有し、再発しないように職員間で話し合いの機会を設け、対応している。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		虐待セルフチェックを定期的に行い、自己啓発に努めている。また、法人として研修計画に取り入れている。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6		やむを得ず身体拘束が必要となった場合は、すみやかに説明したうえで計画書や承諾書に同意書名をいただくようにしている。	